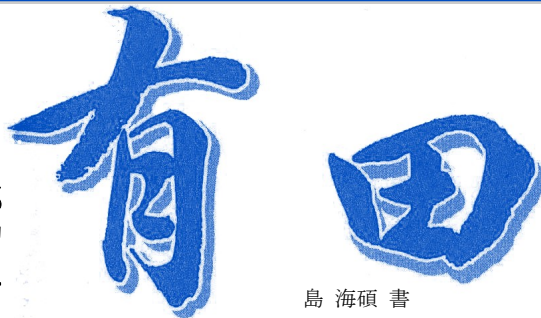


No. 3065

2023-2024年度

会 長 川口健太郎
幹 事 木本 隆昭
広報小委員長 井上 修平



島 海碩 書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
例会場 紀州有田商工会議所6F
事務所 〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020
創 立 昭和34年6月15日
ホームページ <http://www.aridarc.jp>
e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



2023-2024年度クラブ方針

「希望は私たちの原動力！」
～地域に明るい活力を広げよう！～



本日のプログラム

令和6年2月1日 第3066回

- ・会員卓話：上野山 栄作君
「ロータリーと私」
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

次回のお知らせ

令和6年2月8日 第3067回

- ・外部卓話：一社) しろにし 下村 祐輝氏
(コーディネーター、地域おこし協力隊)
- ・ソング：「我等の生業」

前回の報告(第3065回例会)

開催日 令和6年1月25日(木)

点 鐘 [川口会長]

ゲストの紹介 [松村SAA]

ゲスト：松本 吉晴様(有田市立文成中学校 校長)
松村 尚彦様(有田市教育委員会 教育総務課長)
石井 沖彦様((株)石井建材店 代表取締役)

ニコニコ箱の報告 [松村SAA]

川口君：文成中学校 松本校長様、教育委員会 松村課長様、本日は卓話よろしくお願いいたします。また、場所をお借りすると共に見学させて頂きありがとうございます。

木本君：有田市立文成中学校 校長 松本吉晴様、有田市教育委員会 教育総務課長 松村尚彦様、本日はお世話になります。宜しくお願い致します。

石垣(洋)君：松本吉晴校長先生、お話し楽しみにしています。箕島中学校様、有田市教育委員会様、本日はお世話になります。

岩橋君：有和中学校の玄関と渡りローカの化粧材は紀州材の杉を使用しています。有田川木材協同組合が納品しました。

上野山(捷)君：松本吉晴校長、本日はお世話になります。

中村君：有和中学校の皆様、本日はお邪魔いたします。松本先生、卓話宜しくお願い致します。和歌山県教育委員会功労賞を受賞しました。

宮井君：新校舎開校おめでとうございます。本日、松本校長先生、お忙しい中、卓話並びに校舎内覧宜しくお願いします。

中元君：本日の有和中学校でのローテーションデー宜し

くお願いいたします。

橋爪(誠)君：松本校長、松村課長様、本日はローテーションデー開催ご協力誠にありがとうございます。勉強させて頂きます。

井上君：松本様、本日の卓話よろしくお願いします。

児嶋君：ローテーションデー、松本吉晴校長先生、卓話よろしくお願いします。

菅原君：松本先生、卓話宜しくお願いします。

佐原君：学校を見せていただくのを楽しみにしております。

山下君：松本様、本日の卓話よろしくお願いします。校舎内覧も楽しみです。

松村君：松本吉晴校長、お話し楽しみです。箕島中学校様、有田市教育委員会様、本日はお世話になります。

出席報告 会員数25名

(出席規定免除会員9名)

出席会員16名

(出席規定免除会員5名)

会長の時間 [川口会長]

「職業奉仕」

皆さんこんにちは。本日はローテーションデーとしまして有田市立箕島中学校を会場としまして、後ほど松本校長先生のお話しをお伺いしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。また今日はこの冬一番の寒さとなりましたが、ご参加頂きました会員の皆さまありがとうございます。

さて本日のテーマは「職業奉仕」であります。この1月ロータリークラブでは職業奉仕月間と定められています。よく職業奉仕はロータリークラブの一丁目一番地と伺うことありま



すが、その実よくわかりませんでした。しかし何かと携わるうちにロータリーの目的を知り、その第2に「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるもの認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする」と書かれています。その他に五大奉仕、ロータリアンの行動規範においてもその大切さを謳っています。だからこその他の団体とは一線を画すと感じています。それを物語っているのは四つのテストであります。1.真実かどうか？2.みんなに公平か？3.好意と友情を深めるか？4.みんなのためになるかどうか？これを職業奉仕に当てはめている文言が、先日購入させて頂きましたロータリーガイドブックに掲載されています。1.その事業に嘘、偽りはないか？2.事業関係者すべてにおいて公正か？3.企業の信用を高め、より良い人間関係を築けるか？4.事業関係者すべてにためになるか？と実に簡単明解であります。そしてこれを実践するには四つのテストの一番最初に書かれています「言行はこれに照らしてから」皆さんと共に高めて参りましょう。

幹事報告 [木本幹事]

1.第7回定例理事役員会報告

① 1・2月度例会プログラム(案)の件
【承認】

② 12月試算表(案)の件 【承認】

③第2640地区 能登半島地震支援事業(案)の件 【承認】

④第2640地区 地域社会奉仕委員長 上野山栄作氏より、地区の方から事業内容をさらに検討して連絡があるとの事なのでその時に再度協議し現段階では保留とする。

⑤後期IDM(案)の件 【承認】

・2月15日(木)、2月22日(木)に橘家にて開催。

⑥例会記録用ビデオカメラ修理もしくは購入(案)の件
【承認】

・新しいカメラを購入する。費用は公共イメージ向上委員会の予算を主として充当する。

⑦その他 有田市立有和中学校開校記念講演 講師選考の最終調整について【承認】

・帝京大学スポーツ医学センター教授 帝京大学スポーツ局局長 帝京大学ラグビー部前監督 岩出雅之(いわでまさゆき)氏を講師に選考

2.地区より

- ・2024-2025年度RIテーマが発表されました。「ロータリーのマジック」です。
- ・新旧合同「クラブ社会奉仕委員長会議」日程の案内が届いています。
- ・令和6年能登半島地震 支援金についての案内が届いています。期限が1月31日の為、第2回臨時理事役員会を開催し協議します。
- ・2025-26年ガバナー指名委員会より選出されている地区ガバナー 北野治義氏(和泉南RC)に対し、対抗候補者 初田隆生氏(和歌山北RC)が提出され、受理されました。会長宛てに届いています。期限が1月31日の為、第2回臨時理事役員会にて協議します。

3.ハイライトよねやま286号が届いています。回覧します。



4.御坊ロータリークラブより70周年記念ゴルフ大会の案内が届いています。回覧します。

ロータリー友誌の紹介

[クラブ広報小委員会 菅原委員]

【横組】

P7～職業奉仕月間にちなんだ特集「難しいと思いませんか？職業奉仕」が組まれています。

職業奉仕の目的として

「事業および専門職種の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践してゆくことである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるためにクラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる」とあります。

私たち入会からあまり年月の経っていない者にとって「職業奉仕」は他の奉仕活動と比較しその意味の理解がしにくいものであります。今月号のこの記事を読み進むうちなんとなくですが理解が少し深まったような気がします。

P10からはその職業奉仕の具体事例が6つのケースで示されています。

P14～P17 シンガポール国際大会についての記事が掲載されています。今回参加されない皆様もご一読いただければシンガポールについて知る記事となっています。

【縦組】

P4～「四つのテスト」についてのお話しです。こちら職業奉仕月間にちなんだ「言行はこれにてしてから」をどのように理解されたか職業奉仕セミナーの講演内容です。

P13 “日本人とお米のはなし”に「日本酒で乾杯！」を読んでみませんか？酒飲みの酔っぱらいがなぜ「トラ」と呼ばれるかとか、般若湯という呼び名はなぜ生まれたかとか。日本酒にまつわるお話です。

卓 話



有田市立文成中学校
校長 松本 吉晴 氏

「確かな人権意識と

実践力を育てる人権教育の充実」

1. はじめに

(1) 有田市の概要

有田市は、和歌山市から南に約20kmに位置し、霊峰・高野山を源とする有田川河口にひらけた、人口約2万6千人の市である。気候は温暖で、みかんを中心とした農業・沿岸漁業、石油精製業が盛んである。しかし、石油

精製業については工場の閉鎖が決定し、現在その跡地利用について協議を重ねている最中である。

この有田市には、現在3つの中学校と7つの小学校があり、令和4年度には中学生597名、小学生1,139名が各小中学校に通学している。

(2)有田市の中学校の概要

有田市では、ここ近年児童・生徒数の減少が大きな課題となってきた。そのため、「有田市学校規模適正化基本方針」に基づき、市内にある初島中学校・箕島中学校・保田中学校・文成中学校の4つの中学校を1つに統合することとなった。

令和4年には初島中学校の箕島中学校への先行統合が行われ、令和6年4月に統合中学校である「有和中学校」として、新たにスタートを切る予定である。

現存する3中学校の令和4年度生徒数とクラス数は次のとおりである。

学校名	生徒数	全学級数（特別支援学級）
箕島中	311	12（2）
保田中	128	8（2）
文成中	158	8（2）

2. 市内中学校の統合に向けて

市内4中学校の統合に向けて、統合準備委員会、及び教職員・PTA代表からなる5つの部会が組織され、様々な内容について審議を重ねてきた。事務局的な働きを中心は教育委員会であるが、市内小中学校長会としても多くの面においてその一翼（片翼）を担っていった。

その中で市内小中学校長会としては、これからの有田市の人材を育てる新中学校創設にあたり、人権教育的な視点を十分に取り入れていく必要性を意識しながら協議を重ねてきた。

(1)学校名・校章の選定

それぞれの学校には、長年にわたり積み重ねられた歴史や培われてきた学校文化があり、統合に反対する地域の声も少なくはなかった。

そのため、互いの学校・地域を尊重し、有田市全体を広い視野で見た「ふるさと有田市の新しい中学校」を創設していくことを目指した。これは、市内小中学校長会としての総意でもあり、教育委員会も同意見であった。

この考え方のもと、学校名や校章の選定にあたっては、児童・生徒、教職員のみならず、広く世間に公募をかけ、選定を行ってきた。また、児童・生徒が案を考える際には、自分が在籍している学校のことだけではなく、広く市全体を見て、お互いを尊重し合えるように指導を積み重ねてきた。

結果、学校名・校章とも多くの案が寄せられ、新中学校の校名は「有和中学校」に決定した。「有和」の「有」は「有田」の「有」、和は「和歌山」の「和」という意味だけではなく、「皆が融け合っていく」など、多くの意味がこめられたものとなった。また、校章も既存の4中学校の校章を反映したものや有田市全体のイメージをモチーフにしたものなど、中学生を中心に非常に多くの案が寄せられた。

(2)制服の選定

新中学校の制服の選定にあたっては、金額や機能性のみでなく、様々な生徒の多様性を考慮して取り組んできた。また、これについても学校内や行政内だけで決めていくのではなく、複数の業者による児童・生徒、保護者等向けの制服・体操服の展示会を設け、広く意見を求めたうえ、投票に基づいて決定してきた。

新制服は、これまでの学生服・セーラー服タイプからブレザータイプに一新、男女共スカート、スラックス、キュロットスカートを選択できるようにした。これに伴って、制服以外の校則についても中学校長会・生徒指導部会合同で協議を重ね、変更してきた。またその標記についても、これまでは男女別で標記していたものをその区別なく標記するようにした。ちなみに統合後の3年生となる令和4年度の1年生女子でズボンを選択している生徒は、4名である。

3. 互いを尊重する集団づくり

中学校統合に向けて、令和4年度から従来の学校教育計画にその取組の土台として以下の2つの柱を設定した。またこの2つの柱の基本的な考え方は、互いを尊重し認め合うことにある。

(1)学校・地域に誇りを持てる取組の実践

自らが育った地域や学校に誇りが持てる、ひいては自己に自信が持てる取組を各校において実践してきた。3中学校で卒業していく生徒については、閉校を迎える最後の卒業生として誇りを持って卒業していけるよう目指した取組であり、統合した学校で生活する生徒にとっても自己肯定感を持てるのが、互いを尊重し認め合っていることに繋がると考えた。

例えば、本校文成中学校においては、本校の卒業生であるオリンピック・パラリンピック選手を招き、在校生に対する講演（対談形式）及び実技指導を実施するなどの取組を行ってきた。



(2)生徒が円滑に統合できる取組の実践

令和4年度からは特に新1年生が統合時の3年生ということもあり、3中学校合同での取組を推進してきた。このことは教育課程や教科の評価等々はもちろん、何より生徒が打ち解け合い、円滑に統合中学校での生活がスタートできるようにすることが必要である。そのためには、統合までの2年間で3中学校においてできる限り交流を行い、互いを知り合い、認め合い、尊重できる集団づくりをしていくことが最も重要であると考えた。

①ゆうわプロジェクト

3中学校合同で行う取組を、令和4年度当初からスタートした。それぞれの取組の計画段階には、3中学校それ

それぞれの1年生の学年主任だけではなく、3中学校の教頭（ケースによっては校長）も入り、協議を重ねたうえで、取組を進めた。

令和4年度に通年で行ったのが、総合的な学習の時間の取組である。外部の指導者にも協力してもらい、ふるさと有田市の福祉等について学習した。その際、リモートで各学校を結んだり、実際に集まって発表会を行ったりするなど、可能な限り交流を深めてきた。

② 自然教室

3中学校合同で自然教室を体験し、交流を深めた。当初の計画段階では1泊2日での計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で泊付きを断念した。しかし、丸一日かけて同じ体験をする中で、お互いを知り合い、認め合える関係づくりをすることができた。



4. 成果と課題

成果については、令和6年に統合中学校がスタートした後に現れると考えている。また課題については、コロナ禍の中、実際の交流を深めていく機会をとることがなかなかできないことがあげられる。

5. おわりに

これまで育まれ培われてきたそれぞれの学校の歴史や文化を、互いに認め合い尊重できる関係にしていけるよう、引き続き取組を進めていきたい。

閉会・点鐘

〔川口会長〕



ローテーションデー 箕島中学校（令和6年4月～有和中学校） 校舎見学

